

今回も、多様な報告テーマから刺激を受け、ヨーロッパの新たな側面を知って、有意義に感じた感想が多かった。それぞれの「期末レポートを読みたい」と。「端から最終レポートを読みたい」など。

1. 今回は結婚観（中世¹）、ソ連社会主義、日本とドイツの労働条件の違い、建築など多岐に渡るテーマが取り扱われており、「ああその視点もあった」、「それも面白そうだなあ」と刺激され続けていました。どのテーマも面白そうで、期末報告で読みたいものが増えてしまって、とっても嬉しく感じています。また同時に、数回にわたり、社会の見方にたくさん触れることができ、こんな見方で社会を見れるようになりたいと強く思いました。特に社会主義については、こちらのほうが民主主義よりも²弱者の包括はできそうだなあと思っていたので、とても楽しみです。
2. “ヨーロッパ”という地域の中でこんなにも広範囲で様々な興味分野があるのかと思うほど、皆のテーマがいろいろで期末レポートを読むのがすごく楽しみ。
3. イラク戦争＝侵略戦争、の新聞記事・・・アメリカが国連決議のないまま（ドイツとフランスの反対など）イラク戦争に踏み切ったが、その開戦の大義・根拠がなかった。そのことが、アメリカに追従してイラク戦争に参加したイギリスにおいて、調査の対象となった。結果は、「法的根拠に程遠かった」、大量破壊兵器はなかった、それがあるというのが開戦の大義だった。「不完全な情報をもとに策定」。すなわち、合法的な根拠なしの戦争＝侵略戦争だったとの結論。
「今回の講義で配られた新聞のコピーについて。とても重大な問題であると感じる。子供のころに漠然とテレビでニュースとなっていた「イラク戦争」。これの法的根拠がないという報道。詳しく調べてみようと思った³。
4. 右傾化ドイツについて
 - a. 発表は具体的で分かり易い情報・データで、短い発表で会ったにもかかわらず、現代ドイツの状況や難民について把握でき、講義を受けているようだった。…7月30日からドイツの友達が東京へ遊びに来るので、今期のこの講義で学んだことやナチスのこと、難民のことを意見交換できたら良いなと思っています⁴。
 - b. 難民問題は経済状況は必ずしも悪くなっているわけではないのに、人々のつながり的な観点からみると

¹ 「中世」というとらえ方が何人かの感想にありました。しかし、対象時期ははたして「中世」でしょうか？

1840年代がジェーン・エアの作品の舞台です。19世紀中ごろ、ヴィクトリア女王の時代です。これは近代ではないでしょうか？

描かれている内容が、みなさんに「中世」のように感じられるとすれば、それだけ19世紀が遠くなってしまったということですね。

² 「民主主義」の制度は、市場主義社会・資本主義社会を基盤にしている。その市場主義と資本主義が、グローバルになっている、「自由主義」の名のもとに、そのグローバル化の度合いが、ソ連・東欧崩壊後、高速で強まっている。この新自由主義といわれる世界の流れは、市場という同じ土俵の上で、巨大なものと小さなものが一緒に競争することを強制することになり、弱者が排除されてしまうことになってしまう。格差拡大が世界中で深刻化している。相撲の同じ土俵で、巨大な力士と小学生が勝負をすれば、小学生が投げ飛ばされ、場合によっては死んでしまうであろうことは、容易にわかる。

³ ぜひ、詳しく調べてほしい。現在の中東の混乱、IS台頭・ヨーロッパにおけるISのテロを考えると、その重大な原因をだれが作り出したのか、ということはきちんと見据えて、どうしたら再びそのようなことを起こさないかを考える必要がある。米英は、それぞれ「民主主義」と「自由」を看板にしている。あるいはキリスト教の支配的な国家である。そうした巨大な国家が、過ちを犯したわけで、それを繰り返さないためにはどうしたらいいのか。非常に重い問題である。

⁴ 日本人として、明治維新以降の歴史、特に日清戦争、日露戦争、第一次大戦における日本のアジアへの膨張・帝国主義国化の歴史なども骨子をつかみなおしておく必要がありますね。関東軍の謀略による満州国建設、それに対する国際連盟の批判、これに対して「批判は受け入れず」と常任理事国だった国際連盟を脱退してしまったこと、そのあと、ナチス・ドイツが国際連盟から脱退したこと、ナチス・ドイツと日本の天皇制政府が結びつきを強めていったことなど。今年は、1936年の日独防共協定から80周年記念の年です。この後、1937年に日中戦争を引き起こします。ドイツの人と語り合うためには、少なくともこうしたことに対して、自分がどのような歴史認識と考えをもっているか、対話を実り豊かになるためには、必要なことだと思います。

結構深刻でありということを見ると、経済という合理的な面だけでは証明できない人々の心理という面も改めて重要な論点だと思った。

- c. 西アジアの国々からの難民がかなりの数ヨーロッパに流れ込んでいる⁵ことは分かったが、なぜ東アジアの方へは行かないのだろうか、疑問に思った。
- d. ドイツの難民問題で、市民が「イスラム教の考えを知らない」と答える人が多いことに驚きと、カギになるのではないかという期待が生まれました。…国民の中でイスラム教ノ割合が多いのにも関わらず、考えを知らなかったり、友達がいないという状況は、「無知」から生じる恐怖感や嫌悪感につながると思います。イスラム教の人とそれ以外の人とのかかわり方に焦点を当てるのも面白いと思った。
5. ドイツでもイスラモフォビアの動きがみられることを知って、イギリス、フランス、ドイツなどのヨーロッパにおける主要国家⁶が反イスラム的風潮を持つことによって他のヨーロッパの国に与える影響は大きいだろうと思った。
6. ソ連と冷戦について。
 - a. これを語るうえでアメリカの存在というのを抜きにしては考えられない。ソ連もアメリカもお互いを誤解していた、深くまで真意がわからなかったのがカギ。ソ連は冷戦において悪として見られがちだが、その行為は防衛的なものであったという意見もある。
 - b. ソ連について、報告と似たようなことを調べたのだが、調べれば調べるほど、われわれはソ連についてきちんと認識できていない、誤解があるということが分かった。例えば、ソ連崩壊にしても、その直前のゴルバチョフの様々な改革とヤナーエフらによるクーデターの関係・・・など。
7. ジェーン・エア
 - a. 女性の結婚観の定義の変遷など詳しく調べてみたいと思った。映画も見てみたい。
 - b. 家庭教師か結婚かの二択しかなかったというのは初めて知り、驚いた。
8. ル・コルビュジエについて⁷
 - a. ジェーン・エアという文学作品や建築からヨーロッパ社会を考察する人がいて、芸術面からはまた新しい見方ができると思った。
9. ドイツと日本の労働時間に関して。
 - a. ドイツ度労働に関して、日本では過労死など長時間労働が問題視されている中、ドイツと日本の「仕事観」の違いがとても気になりました。日本では仕事は何よりも大切という人が多いのでは！？
 - b. 日本は、海外と比べて⁸労働時間が長いことや、長いわりに生産性が低くて効率が悪いといわれているイメージがある⁹。実情は知らないので、興味深いと思った。

⁵ 西アジア、中東とヨーロッパとの結びつきの長い歴史・密度・関係の深さ・情報量を考えてみる必要がありますね。問題の西アジア、中東は、かつて 19 世紀末から 20 世紀前半の時期にイギリス、フランスの勢力圏であり、第二次大戦後はアメリカの勢力圏とも重なっていく地域です。古くから地中海世界の交流の歴史があり、征服とそれへの対抗の戦争の場所でもありました。こうした歴史が示すヨーロッパ諸国と中東・西アジアの「交流」の歴史は幾重にも積み重なっています。

⁶ ドイツ国民の中でも、報告が示すように、「意見が異なる」という点に注意が必要。どのような人々・どのような考えの人々が、難民・イスラム系の移民を受け入れようとし、どのような人々が嫌悪感をち排除しようとするのか。

⁷ この間に、彼の作品群が「世界文化遺産」に登録され、上野の西洋美術館もその一つに認定されたので、関心が高まりますね。それに関する期末論文ですので、楽しみです。

⁸ 海外といってもたくさんの国があります。どこの国と比較するかが大切です。アメリカも長時間労働です。ドイツやフランスは週労働時間・年労働時間が世界的に見て非常に少ない国の代表です。世界各国の労働時間を調べ、ヨーロッパ諸国の労働時間と比較してみることも大切ですね。ILO 国際労働機関のホームページにアクセスすれば、保父なデータを見ることができます。

⁹ 日本でも、すべての企業が、長時間労働ではない。ブラック企業と言われるような企業から、そうではない優良企業もある。したがって、どのような企業が、どのような労働時間・労働環境なのか、調べてみる必要がある。